



む け 無 憂 華

浄土真宗本願寺派正念寺
常陸太田市久米町20-1
発行：正念寺護持会

電話：0294-76-2058
FAX：0294-76-0169

正念寺の歴史と今

正念寺という名前の寺は、明治36年に東京の麻布に寺号のみ残っていた「浄土真宗本願寺派 正念寺」を久米に移す形で誕生しました。それまでは、「真宗大谷派 久米願入寺」と呼ばれていました。そのあたりの細かな事情については、正念寺の縁起をご覧ください。ただければと存じますが、久米願入寺の名残を継承しているのが「正念寺」という事になります。その様な関係で、正念寺の開基を「如信上人」と戴いております。

如信上人は、親鸞聖人の孫になり、親鸞聖人のもとで薫育を受けておられました。如信上人は、父善鸞と常陸国の御同朋の確執に心を痛められ、祖父、親鸞聖人より伝えられた「本願念仏」の教えを熱心に伝道されておりました。

如信上人は、毎年親鸞聖人のご命日(旧暦11月28日)には、お住まいの大綱(現福島県古殿町竹貫辺り)から京都を訪ねて「報恩講」をお勤めされたと伝えられております。しかし、正安元年12月に京都での報恩講法要を勤められての大綱への帰路、現在の太子町金沢の乗善房の草庵(現真宗大谷派法龍寺)に迎えられて、お法を伝えられておりましたが、病に伏せられ、年が明けた4日に念仏の息絶えてご往生されました。

如信上人の子孫は、大綱に住んでいたのですが、その後3代空如の時に「願入寺」と名乗りました。その後は、8代如慶の時に「大根田(現常陸大宮市)」に移り、更に10代如了の時に「菅谷村(現那珂市)」に移転。そして12代如正の時に久米に移転しました。その後光國の命により久米から大洗に移り、久米は住職不在の寺となり、江戸年間の約200年の間に寂れていきました。

明治9年に久米願入寺の荒廃を憂えた「佐竹崇信」が住職となりますが、様々な事情により明治36年に「正念寺」と公称することとなりましたが、この「正念寺」が先に書いたように「本願寺派」であったため、大谷派から本願寺派に転派する事となり、現在に至ります。

明治時代以降は、寺や神社の土地はすべて国が接収しておりましたが、第2次世界大戦後に、その土地が寺や神社に戻されることとなりましたが、正念寺の場合、もともと願入寺という事もあり、すべての土地を「正念寺(元久米願入寺)」に戻されたわけではなく、願入寺名義の土地が残ることとなり、昭和34年頃に現在の本堂を再建し、徐々に寺としての形を整備して参りました。

去年は、新型コロナウイルスの問題のため、様々な行事の中止や延期、そして法要の形態変更をせざるを得なくなりました。しかし、今後はインターネットを活用するなどして、ご門徒の皆さまと共に、正念寺を更に発展させていくことが出来れば有り難い事だと思えます。

現在、Zoomを使ったご法事やコンサート・法要等の配信などを行って参りましたが、今後はYouTubeの利用なども視野に入れていきたいと思えます。インターネットを利用することによって、病院や施設に入ってもご法事や法要、各種行事に参加することが出来ます。様々な媒体を利用しながら、出来るだけ使いやすい方法を皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。



Zoomを使ったご法事例

仏
説
阿
弥
陀
經

(第二回)※ご法事でよく使われる「仏説阿弥陀經」を現代語訳しています。

また舍利弗よ、極樂は、金・銀・瑠璃(ラピスラズリ)・玻瓈(水晶)の宝石で出来た垣根が七重に張り巡らされており、空にはやはり金・銀・瑠璃・玻璃の宝石で出来た網が七重に張り巡らされており、七重の街路樹もまた金・銀・瑠璃・玻璃の宝石で出来ているから、その国を極樂と名付けるのである。

また舍利弗よ、極樂には、金・銀・瑠璃・玻璃・砮磈(白珊瑚)・赤珠(真珠)・碼瑙で出来た池があり、その池は八つの功德(甘い・冷い・柔らかい・軽い・清らか・臭くない・喉に良い・お腹にも良い)を持つ水で満たされている。そして、池の底には金の砂が敷き詰められている。池の四方には、金・銀・瑠璃・玻瓈で出来た階段があり、その上には金・銀・瑠璃・玻瓈・砮磈・赤珠・碼瑙で飾られた建物が建っている。池の中には、車輪のような蓮の花が咲いており、青色の花からは青色の光が放たれ、黄色の花からは黄色の光が放たれ、赤色の花からは赤色の光が放たれ、白色の花からは白い光が放たれ、それぞれの個性が精一杯發揮され、皆同じように輝ける世界で、清らかな香りが漂っている。舍利弗よ、極樂は、この様に成り立っており、様々な功德(煩惱の象徴のような宝石類がそこかしこに飽きるほどあり、その様な物を欲しがること無く仏法を楽しむ心)で飾られている世界である。

また舍利弗よ、無量寿・無量光の世界には、常に天から音楽が降ってきて、地面は黄金で敷き詰められている。そして一日に六回、天から曼荼羅の花が降り注ぎ、その国に住む人々は、清々しい朝を迎えると、それぞれの器に花を盛り、他のあらゆる国々の数限りない仏がた(十万億仏)を供養する。そして食事の時には自分の国に戻り、食事を済ませてそのあたりを静かに散策する。舍利弗よ、極樂はこの様に成り立っており、様々な功德で飾られている世界である。

また次に舍利弗よ、その国には様々な形や色の鳥がおり、それらは白鵠(白鳥のような白い美しい鳥であり、姿の美しさでも私たちに教え導くといい、美しさは極樂浄土と如来の清らかさを表している)・孔雀(実在の鳥で、羽を広げた美しさは誰も認めるところです。その美しさは極樂浄土を表しており、サソリなどの毒虫を食べる事から、益鳥として尊ばれていて、このために毒や煩惱を払う象徴としても敬われてきた)・鸚鵡(これも実在の鳥で有り、人の言葉を真似る鳥として知られており、人の言葉を理解する賢い鳥とされ、仏法を説く鳥としてお浄土を飛んでいる)・舍利(この鳥も人間の言葉を覚える賢い鳥とされ、鸚鵡とともに仏法を説く賢い鳥としてお浄土にいる)・迦陵頻伽(よく鳴き、その声は大変美しい鳥と言われており、聞き惚れてしまうほどの美しい声によって法を説く鳥で、顔は人の顔、身は鳥の姿と言われている)・共命鳥(身体は一つで、頭が二つに分かれている鳥と言われ、まさしく命を共有する鳥であり、迦陵頻伽同様に顔は人の顔、身は鳥の姿であると言われ、どんなに顔かたちが違っていても、離れていても、関わりないようであっても、命はつながっているということを示している)などである。これらの様々な鳥たちは、一日に六回優雅な声で鳴き、その鳥の音は五根・五力・七菩提分・八正道分などの教えとなって聞こえてくる。極樂に住むすべての人々はこの鳥の音を聞いて、仏を念じ、法を念じ、僧を念じるようになる。



白鵠



孔雀



鸚鵡



舍利



迦陵頻伽



共命鳥

正念寺本堂前卓より

参れ～寺カード十ポイント達成報告

コロナで法要参拝の制限などがある中、20ポイントを達成された方が出ました。おめでとうございます。今後とも沢山お参りいただき、100ポイントを目指して下さい。

参れ～寺20ポイント達成者

井坂 よし江様(写真中)

参れ～寺10ポイント達成者

安 二郎様(写真右)

猪口 治三様(写真左)

坂内 豊子様(写真無し)

坂内 愛子様(写真無し)



花祭りコンサート

今年の花祭りコンサートは、4月10日(土)に行います。彼岸会コンサートと同様、ビニールカーテンを使って飛沫感染対策を致します。また、ZoomとYouTubeによる配信も致します。YouTubeについては、まだまだ勉強中のため、不具合が出るかも知れませんが、ご容赦下さいますようお願いいたします。なお、YouTube配信についてのURLは、LINE登録されている方につきましてはタイムライン上にてお知らせ致します。また、正念寺ホームページ上においても、3月中にはお知らせいたしますのでご注視下さい。

ZoomのミーティングID : 86100729585

パスコード(パスワード) : 48

花祭りコンサート QRコード



小児がん患者さんご家族へのサポート

小児がんは特殊であり、それを治療できる病院は少なく、その為東京に通院・入院される方も多く、親の負担も大きくなっているのが現状です。築地本願寺内にある東京ビハーラでは、その負担を少しでも少なくするため、1人1泊1,000円(税込み)で築地本願寺第一伝道会館の宿泊施設(ビジネスホテル相当)を利用できる、という活動をしています。

国立がん研究センター中央病院入院通院の方
東京ビハーラ(03-5565-3418)へ連絡
受付時間：月～金(14時～17時)

聖路加国際病院に入院通院の方
本館1階「医療連携相談室(SSD)」を通して予約

国立国際医療研究センター病院
東京女子医科大学病院に入院通院の方
NPO法人「病気の子供支援ネット遊びのボランティア(03-6380-3115)」を通して予約

ビハーラとは、キリスト教で言う「ホスピス」に代わる仏教語で、「安らぎ・くつろぎ・お寺」という意味があります。

※詳しいことは「正念寺」へご連絡ください。

感謝録

ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させて戴きます。

一、夫の永代経として

金 貳拾万円

萩野谷 朱実様

一、総代退職記念として

金 五万円

會澤 宏様

一、弟の永代経として

金 五拾万円

樫村 一洋様

本願寺御影堂門



正念寺ホームページのご案内

正念寺ではホームページがございます。常陸太田市・正念寺で検索していただきますと「正念寺」のホームページが出てきます。

最近、ホームページを見て子供連れでお参りに来られた方がいらっしゃいました。有り難い事です。

スマートフォンなどからは、右記QRコードを読み込んでください。



お陰さまで女兒誕生

副住職夫妻に無事女の子が誕生しました。1月30日午前6時58分に3080gで生まれ、真希と名付けられました。



住職雑感

寺報の表題につきましては、以前から募集しておりましたが、残念ながらなかなかご応募頂けませんでした。

しかし、今回から題字を「無憂華」として、見た目も縦書きから横書きへ変えました。これで今までも増して興味を持っていただければ幸いです。

さて無憂華とは、「無憂樹」という木に咲く花のことです。無憂樹は、菩提樹・沙羅双樹と共に仏教では大変大事にされている木で、お釈迦様の誕生された所にあつたのが無憂樹だつたと言われており、菩提樹はお釈迦様が悟りを開かれた所で、沙羅双樹は亡くなられた所にあつたものです。

この様なわけで仏教徒には、大変大事にされていますが、この無憂華は、浄土真宗の者にとっては特に思い入れのある花と言ってもいいでしょう。なぜなら、本願寺21代門主の娘として生まれ、現在の京都女子大の設立や、関東大震災で被災した築地本願寺の再建に尽力した、柳原白蓮と共に大正三美人と称された、九条武子夫人によって、昭和2年に出版された歌集の題名が「無憂華」と名付けられていたからです。憂い無き華と書く無憂華。本当にそんな気持ちになりたいものです。